－所蔵作品紹介－

中江　紀洋　NAKAE Norihiro

私のＢＣ445

わたしのＢＣ445

作品データはこちら

釧路出身の中江紀洋は、武蔵野美術大学で彫刻を学んだ後、同地に戻り、主に自由美術展（1976年会員）と全道展（1982年会員）を舞台に作品を発表（いずれも1996年退会）。また、道内各美術館での企画展にも数多く出品し、1994年には道立帯広美術館で個展を開催するとともに、市民とのコラボレーションによる作品制作を行うなど、多彩な活動を展開している。

1980年代の初めからは、大英博物館で見たギリシャ彫刻のイメージを発展させた〈私のＢＣ〉（紀元前）シリーズを手がけた。これはそのひとつであり、パルテノン神殿の女神像―母ディオーネの膝に横たわる美の女神アフロディーテ―に想を得たものだという。トルソを思わせるフォルム、砥の粉でうっすらと白く着色された表面は、着想のもとになった大理石彫刻の面影を微かに宿してはいる。だがこの作品では、古代彫刻の精緻な具象表現が荒削りなフォルムに置き換えられることで、より一層凝縮された、塊としての存在感が強調されている。表面に刻み込まれた力強いノミ痕は、過去の美が中江の感性のフィルターを通じて、自立した新たな造形表現へと転化されたことをはっきりと物語っている。これを、遙かな時を越え、現代の作家によって再生された、歴史の新たな姿と解することもできよう。

「北海道立旭川美術館コレクション選集1982-1997」（1998年３月発行）より